

地球時代の選択肢
南アフリカに移住した家族
吉村 稔・吉村峰子 (南アフリカ・ダーバン在住)



第 69 回

今年の南アフリカの総選挙とその結果

1994 年の最初の全人種参加の総選挙から 30 年が経った 2024 年 5 月 29 日、第 8 回目の南アフリカ総選挙が実施されました。しかし、有権者の投票率は過去最低の 58.61%に留まりました。これは近年の選挙（2014 年 73.5%、2019 年 65.4%）からの大きな減退であり、政治プロセスや主要政党に対する国民の幻滅が高まっていることを反映しています。

ANC（アフリカ民族会議）は 1994 年の新政府樹立後、南アフリカの政治を支配していましたが、今回は 39.77%の得票率にとどまり、30 年ぶりに過半数を失いました。ANC は、故ネルソン・マンデラ氏などが白人政権の人種隔離政策（アパルトヘイト）を撤廃させた政党です。その一方、多くの非アフリカ系南ア人が支持する DA（民主連合）は 21.81%の得票率で 2 位を占め、西ケープでは 53.37%の票を獲得し、州議会での多数派を維持しました。また、新たな政治勢力である MK（民族の槍）党は、全国で 14.58%の得票率を獲得し、クワズール・ナタールでは 44.91%の票を得て最大政党となりました。

この MK 党とは、前大統領ジェイコブ・ズマ氏が ANC から分裂して選挙直前に設立した新しい政党です。ズマ氏はクワズール・ナタール州出身で、地元では圧倒的な支持を受けているのです。が、皮肉なことに、彼らのこの動きが今回の連立政権の大きな立役者だったのです。ズマ氏は自分が不当な扱いを受けた、という主張とともに ANC から独立したのですが、結果的に ANC の議席を MK が奪ったという事態になりました。これが ANC 幹部の逆鱗に触れ、かつての政敵であった DA を連立政権に取り組むという奇跡ともいえる現実が起こったのです。

DA は、多くの白人系南ア人が支持する政党であるが故、なかなか支持基盤が広がりませんでした。世紀の悪法、アパルトヘイトを実施していた政党とはまったく別の政党なのですが、かつての支配者であった「白人」と「人種隔離政策」は往々にして同一視されてきたのです。また、地方などへ行くと、他の政党の宣伝として、「DA が政権を取ったら南アはまたアパルトヘイトの時代に戻る」、「いま受給されている子ども手当などが DA になっ

たら廃止される」という根拠のない嘘や誹謗中傷が DA という政党を選ばせないために広く流布されていたのです。

私の住むクワズール・ナタール州では、前述のとおり、この元南ア大統領であったジェイコブ・ズマ氏の率いる MK 党が最大政党となったものの、過半数を超えることができなかったため、ANC、DA、IP の三大政党が連立政権を組み、MK を追いやりました。

この歴史的な政変がどれだけすごいことなのかを少し説明させてください。

人種隔離政策とは、白人政権が、白人以外の人種の南ア人を徹底的に差別し、教育、就職、結婚の自由、移動の自由などを奪っていた政策です。当時の彼らは、白人以外の人種は自分たちと対等な人間とはとらえていなかったのです。もちろん、白人の中にもこの政策に反対していた人たちは少数ながら存在していました。が、圧倒的大多数の白人たちは自分たちの優遇されていた身分を享受し、その恩恵を他の民族に渡そうとはしなかったのです。

そこで激しく差別されながらもこの政策の撤廃に挑んだのが ANC でした。ANC の闘士たちは多くが殺され、牢獄に何年も囚われ肉体的にも精神的にも暴力を受け続けてきました。しかし、彼らの命をかけた運動が功を奏し、それによって世界世論の反アパルトヘイト政策が高まりました。このままの状態でのこの政策を続けていけない、と考えたデクラーク元大統領が率いる当時の政権がマンデラさんおよび他の囚人を釈放し、全人種が参加して行った選挙が 1994 年だったのです。それ故、南アの多くの黒人層はいまだに ANC への感謝を持ち続けて政党として支持しているのです。

そんな歴史を持つ ANC なのですが、残念なことにこの 30 年は彼ら ANC の政治家の多くが自分の私腹を肥やすことや利権を貪る汚職などに励んでいたのです。結果、国中の経済を疲弊させ、インフラの多くが老朽化し、外国からの投資を呼び込めず、という事態になり、人々がさすがにこのままではいけない、と判断したのです。

これが、今回の DA の連立政権への参加につながっているのは間違いありません。私の周りの南ア人に DA が入った連立政権のことを尋ねてみると、こんな感想が返ってきました。

「ものすごく混乱している。だっていままで DA は白人のためだけって聞いていたのに」
「DA が政権に入って、お金の流れを見張ってくれたら、もしかしたら南アは甦るかもしれない」

「DA ってあのクリスがいる政党なんだよね？ きっといい方向に変わる」

私はここ 20 年に渡りクワズール・ナタール州のダーバンに住んでいますが、私の周りでも確実に変化が起きていると思います。



出典：Queen City News

この「クリス」とは誰なのか。この一人の若い政治家をご紹介することで私が実感している「変化の兆し」を皆さんにも感じていただけたらと思います。



出典：Sky News

クリス・パパスは、クワズール・ナタール州の uMngeni 地方自治体の市長で

あり、南アフリカで初めて公然とゲイであることを公表した市長です。パパスは南アにおける LGBTQ+ の政治代表における先駆者です。彼の性自認と平等へのコミットメントは多くの人にインスピレーションを与え、大きな社会的障壁を打ち破りました。また、彼のリーダーシップにより、uMngeni はこの州で初めて民主同盟（DA）の多数派自治体となりました。

パパスはこの地域の圧倒的多数の黒人層が使うズールー語をネイティブ並みの流暢さで話します。これは、彼が田舎で育ち、地域の人たちとの深い関わりから生まれたものです。彼の持つ広いネットワークがいかに彼の政治姿勢を支えているかの証でもあります。老若男女を問わず、能力・才能のあるものを積極的にプロジェクトに参加させたり、住民の声を聴き、バス路線の延長や図書館を充実させたりと、金銭をばらまくのではない地域重視の姿勢はこれまでの ANC の政治家にはあまりなかったことでした。

パパスのその活動は世界的にも注目を集めつつあり、2023年のTIME100 Next リストに選ばれました。これは、彼が南アフリカおよびその先の政治の未来を形作る潜在力を持っていることを世界が認めた、ということになります。



クリス・パパス氏 出典：BizNews

政治家になる前は、開発経済学者として働いていたパパス。そこでの倫理的ジレンマが彼を公共サービスのキャリアへと駆り立てました。倫理的原則への彼のコミットメントは、今も彼の政治的決定を導いています。

こういった若い政治家が頭角を現してきている南アフリカです。この連立政権がこれからどういった方向へ社会を導いていくのかを大きな期待とともに見守っていきたいと思っています。パパスが将来の大統領になることを夢見ています。